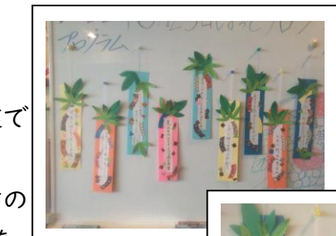
◆　ほっとサロン活動報告　◆

◆　七夕飾りに願いをこめて



七夕が近づいた 6 月 25 日、サロンで七夕飾りを作りました。「危険高温注意報」が出るなか、「涼しいサロンのお部屋」での作業でした。

まず「願い事」を白い紙に書きました。筆ペンで、日ごろのお稽古の成果を生かして、願い事は世界平和から一人一人の穏やかな毎日を願う言葉まで。ペン習字のご指導をお願いしている井上先生にお見せしたら･･･きっと感激してくれる!?　そんな出来栄えとなりました。

できた色紙を幅 10 センチ、長さ 30 センチの色画用紙に貼り、笹の葉を上下に配置しました。後は千代紙で作った小さな短冊や、砂子に見立てた金銀の千代紙で飾り付けをして･･･雰囲気たっぷりの七夕飾りができあがりました。

ホワイトボードに並べて、制作者も一緒に「ハイ、ポーズ!!」　一足早い七夕を楽しみました。

実はこの日は、南葛西にある「なぎさ公園」でアジサイを愛で、そのあと被爆者の慰霊碑がある「区立滝野公園」に行くという「ミニバスハイク」を予定していました。コロナ禍で外出が制限される時期が長く続き、「外へ行きた～い!!」、「毎年千羽鶴を折って献納している慰霊碑をお参りしたい」という声に応えて企画したものでした。例年なら梅雨の時期、まさか「危険高温注意報」が出るとは思わず。なぎさ公園では、公園内のシャトルバスに乗って(^^♪　などと考えていたのに、見事お天気に裏切られる結果となってしまいました。う～ん、企画を立てるのは難しいですねぇ。

あまりの暑さに皆さんと相談した結果の外出取りやめ。急遽の七夕飾り製作でしたが、作品を手にして皆さん大喜び!!

ほっとサロンは、スタッフに様々なアイデアの持ち主がいることも自慢です。

「バスハイクの下見のため、自転車で走り回った膝がチト痛い」とは、担当者から聞こえた「つぶやき」でした（;_;）

NPO 法人ほっとコミュニティえどがわの活動

NPO 法人ほっとコミュニティえどがわは、高齢者がいきいきと安心して暮らせる場をつくり、その活動を通じて、地域に生活する人々が自ら、人と人との関わりを支えあうコミュニティの創造と地域福祉をすすめることを目的として活動しています。

- **高齢者共同住宅「ほっと館」の運営**
  自分流の暮らし方を大切にしながら、一緒に暮らす者同士、互いを気遣いあいながら、程好い距離感を保ちつつ暮らす。そんな高齢者のための、新しい安心の住まい「ほっと館」を運営しています。
- **コミュニティレストラン「ほっとマンマ」の運営**
  ほっと館の居住者、地域の皆さんにむけ、安心したお食事の提供をするだけでなく、多様なテーマでの講習会やイベントを実施。地域のほっとスペースとなることを目指しています。
- **「ほっとサロン」の運営**
  介護保険「介護予防・日常生活支援総合事業」の江戸川区指定「通所型サービス（緩和型）」として実施しています。毎週土曜日、昼食をはさみ、太極拳・リトミック・絵手紙等々、様々なことにチャレンジします。ほっとサロンは、住み慣れた地域で、いきいきと暮らし続けたいという高齢者の皆さんを応援しています。

ほっと通信

Vol.76　2022 年 7 月 5 日発行

～もくじ～
1p～2p…定期総会報告
3P…ほっと応援団
4p…ほっとサロン活動報告他

〒132－0021 東京都江戸川区中央 2－4－18
NPO 法人ほっとコミュニティえどがわ
電話／03－3652－7212　　FAX／03－3652－7215
Ｅメール／hotcom@nifty.com
http://hot-edogawa.com/

発行：NPO 法人ほっとコミュニティえどがわ

「NPO法人ほっとコミュニティえどがわ」は、高齢者の新しい住まいづくりを通して人と人とが支えあうコミュニティ形成を目指しています。

◆ 2022 年度第 21 回定期総会報告

2020年、2021年の総会は、新型コロナ感染拡大の状況を鑑み理事会メンバーのみの参加とし、会員の皆さんは委任状または書面評決による形式で開催しましたが、今年の総会は久しぶりに会員が顔を合わせることができました。

2021年度に入っても新型コロナウイルスの感染は鎮まることなく、ますます拡大がすすみました。生活コーディネーター（生活 Co.）と「ほっとサロン」のスタッフは、毎週 PCR 検査を受けて仕事に取り組みました。また、「ほっと館」と「ほっとマンマ」は、東京都のコロナリーダーに登録し、感染対策や営業時間の短縮などの協力を行ってきたことで、感染対策協力金を得ることができました。

ヤングケアラーを支援する目的で、2019 年に発足した「ケアラーパートナー～木の根っこ～」は、その後議論を深め、ヤングケアラーが集える居場所づくりに取り組むことを決定しました。2022年度の8月以降、「ほっとマンマ」を会場にして取り組みをスタートさせる予定です。

今後も「ほっとコミュニティえどがわ」は、こうした「木の根っこ」の地域に広がる活動への支援を継続していきます。

2022 年度は、「ほっと館」のハード面を中心とした大規模修繕をすすめていく予定です。また、早期にホームページをリニューアルし、「ほっとコミュニティえどがわ」の取り組みについて、大勢の人に伝わりやすい内容にしていきます。

総会報告／会員 33 人中、出席 13 人、委任状 14 人、書面決議 1 人（全議案とも賛成 4、反対 0）

以下、各事業報告および事業計画についてお伝えします。

＜ほっと館の運営＞

◆安心して暮らし続けていただくため

コロナ禍での生活は、予想以上に様々な所で制約を受けることとなり、ストレスも大きく、皆さんの心身への影響が心配されました。ほとんどの入所施設では家族も含めた外部の人間との面会を中止しましたが、「ほっと館」では、ご家族だけはマスクの着用、手指の消毒、滞在時間などのご協力をお願いしながら面会を継続することを選びました。

また、居住者全員が早期にワクチンを接種し、日常の感染予防策を怠ることなく続け、皆さんの心身の状態の変化を見落とさぬよう、暮らしの様子を常に把握し、スタッフ間で共有、必要なサポートを心掛けました。

生活 CO.はチームで仕事をしています。チーム内で情報を共有し、課題解決の方向性を一致させて仕事に臨むことに努めました。今年度は 2 人が新しく加わり、体制の強化を図ることができました。

2022 年度、コロナ感染拡大の収束が予測できない中、これまでの感染予防策を継続せざるを得ない日常が続くと思われます。 基本的な感染予防策を取りながらも、窮屈な毎日へのストレスをため込まないよう、皆さんをサポートしていきます。

居住者の最高年齢は今年 95 歳。 皆さんの平均年齢は、90.6 歳となります。心身にどのような変化があって

もおかしくない年齢です。心身の変化に対し、適切なサポートを行うためには、早期にその変化に気付くことが最も重要です。常に、皆さんの暮らしの傍にいて、その変化を見逃さないようにします。

介護保険をはじめ公的な制度を上手に使うことで、暮らしの質を維持するようにサポートします。そのためには、ケアマネジャーをはじめ、医療・介護関連の専門職との連携を密に行っていきます。

スタッフ間の情報の共有を行い、必要なサポートについては、全員が同じように実施できるようにします。

<ほっとサロンの運営>

いつ収束するのか・・・まったく先の見えないコロナ禍での開催。利用者の皆さんを感染から守るための、最大限の対策を取りながら、最高に楽しい時間を皆さんに提供するよう努めました。

区内の介護事業所での感染拡大時期にも、利用者の皆さんに感染者がでることはありませんでした。

窮屈な毎日、皆さんにとって、サロンが大きな楽しみとなりました。

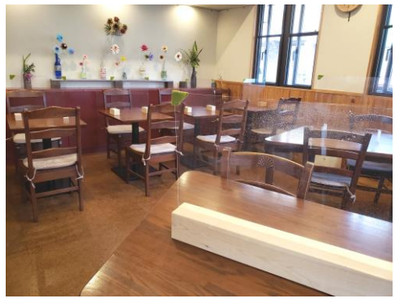
しかしながら密集した空間を作らないために、本来定員「22 人」の所、その半数である「11 人」の利用を上限と定めたため、今年度は経営的に課題を残す状況で終わることとなりました。

2022 年度も引き続き、コロナ感染予防策をキチンと取りながらの開催に努めます。

感染予防を継続しながらの開催では、プログラムにはいろいろと制限がかかることになりますが、それでも感染状況を見ながら、利用者の皆さんに楽しんで頂ける形を模索します。

利用定員に関しても、感染状況を見ながらになりますが、可能な限りの増員を行っていきます。

<ほっとマンマの運営>



2021 年度緊急事態宣言を受け、マンマスタッフ会議では、営業内容について話し合いを行いました。その結果、9 月～11 月のランチタイムは店舗営業を中止し、お弁当のテイクアウトのみとし区役所や児童相談所には配達も行いました。多くの方の利用をすすめるためにお弁当メニューを区役所や周辺の家などに 1000 部以上配布しました。これまで来店していた人以外の利用が増えた一方で、職場の環境からお弁当が食べられない人もあり、利用者にも様々な状況があることがわかしました。

12 月からはランチタイムの営業を開始しましたが、これまで通り一度の利用人数を 12 人までとしました。さらに 1 種類のメニューに限りお弁当のテイクアウトを継続することにしました。

2022 年度に入っても新型コロナウイルスの感染の収束は見えてきません。昨年度に引き続き万全の感染予防対策をしつつ、利用人数の制限とお弁当のテイクアウトを継続することにしました。

また、昨年から話し合いを重ねてきたお菓子のテイクアウトについては、デザートとして提供しているお菓子類を店頭で販売することを始めます。

「えどがわあったか子ども食堂」の活動にもマンマスタッフが中心となり、当面はお弁当配布にしていますが、コロナの感染状況を確認しながら食堂形式で再開することも検討します。

<調査研究>

この3年間のコロナ禍において、住まいに係る状況はずいぶん変わりました。ウィズコロナのなかで、新しい生活様式が提唱されています。オンラインで仕事をすることで、自宅にいる時間が長くなり、むしろ自分らしく暮らせる時間が増えたという人もいるようです。その一方、仕事を失い、住宅を失い、普通に暮らすことができなくなった人が増えています。収入が減り途方に暮れている不安定雇用の人、自分の国に帰れなくなった外国人など、元々居住に課題のあった人たちの抱えていた問題が、コロナ禍により、顕在化してきたのだと思います。

対面でのコミュニケーションが取りにくいなか、自分らしい暮らしは可能なのか、住み慣れた地域との関係を維持できるのか、共生の住まいの土台がゆらいでいるような感じがしています。今年は、昨年に引き続き、共生の住まいとしてのほっと館のありかたについて考える一年としたいと思います。

<2021 年度決算報告>

（経常収益）			（経常費用）	
1．会費収入	199,400円		経常費用	
2．寄付金収入	274,558円		（1）人件費	12,804,011円
3．受取助成金	11,770,000円		（2）その他経費	11,711,917円
4．事業収益	25,572,252円		**経常費用計（管理費含）**	**24,922,154円**
5．その他収益（参加費等）	158,838円		税引前当期正味財産増減額	**13,052,894円**
経常収益計	**37,975,048円**		法人税、住民税等	70,000円
			当期正味財産増減額	12,982,894円
			前期繰越正味財産	45,275,068円
			次期繰越正味財産	**58,257,962円**

※ 東京都に提出する活動計算書に基づく

◆　ほっと館応援団の紹介　◆

昨年、「ほっとコミュニティえどがわ」が参加している「生活クラブ運動グループ江戸川地域協議会」のニュースで「ほっとマンマ」のスタッフを募集したところ、2人の方からの連絡があり新たなメンバーとして参加していただきました。今回は、そのうちのひとり打矢奈津子さんをご紹介します。

「ほっとマンマ」では、新たに入ったスタッフは先輩から数日間の研修を受けることから始めています。打矢さんの担当は居住者の方々の夕食づくりで、4~7人分をひとりで作って提供します。厨房の中のことを覚えることはもちろんのこと、居住者の方の顔や名前、またそれぞれの状態なども知ったうえで食事を作るので大変です。

打矢さんは郷土料理などお得意の料理を作り、いつも明るく元気に皆さんに接している姿が印象的です。

「ほっとマンマ」の夜の部の調理スタッフになって今年の 6 月でちょうど 1 年になりました。調理の仕事に携われたことをとっても嬉しく思っています。

料理をする事が好きでしたが調理の仕事の経験も資格も無かったので、次のステップに進むために 50 歳を過ぎての一念発起、調理師専門学校に通い資格を取得しました。学校に通っているときから調理のバイトを始めていたのですが、私の卒業を待つように母の認知症が進んでいる事がわかり、5 年間介護を続けていました。先の見えない介護生活にコロナ禍が重なり、このままでは共倒れになると思い母には施設に入所してもらいました。体は自由になったのですが、心は罪悪感に支配されました。そんな時に生活クラブのカタログに同封されていた「ほっと館」のマンマスタッフ募集のチラシに出会いました。

コロナ前の「ほっとマンマ」夜の部は近隣の方たちも利用していたようですが、私が採用された時にはお客様は入居者の方たちだけです。母と同年代の入居者の方たちに私の作ったご飯を食べていただくことになり、それは私自身の心のリハビリに繋がりました。私の料理がおロに合うかな?硬さや食べやすさは大丈夫かな?など、夜はスタッフ一人体制のため毎回不安なのですが、調理場から心配の表情全開で見ているとそれに気づいてグーサインを送られたり、とっても美味しかったわよと言ってくださるので、その表情と言葉に毎回安堵と元気をもらっています。

夜の部の担当は栄養バランスを考え食事を提供するのは当然ですが、歩く様子や食欲など普段との変化を見ることも大事だと教えられました。昨年採用される前からちょうど介護職員初任者研修を受講していました。これも私自身のためではあったのですが、高齢の方たちとたくさん接するので学んだことも活かせていればと思います。

入居者のみなさんが元気で楽しく居続けられるように、夜ご飯を週に 2 回だけですが、私の作った料理が心と体の健康への一助になれば幸いです。

打矢奈津子